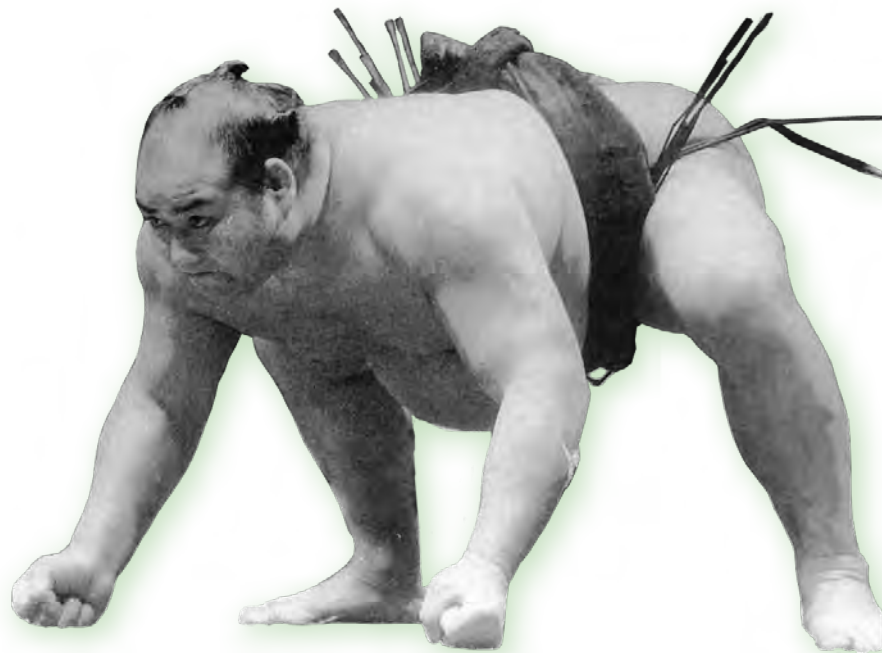


名寄岩生誕100年



名寄岩は、戦前戦後の時代に相撲界を盛り上げ、「名寄」の名を全国的に広めた名寄市出身の名力士です。

初土俵から23年間、40歳まで長い間にわたって土俵に上がり、幕内在位44場所中、大関6場所、関脇15場所をつとめました。

しかしけがや病気も多く、一度は平幕まで下がったものの、二度関脇に返り咲き、昭和25年と昭和27年に「敢闘賞」を受賞。2回目の同賞はのちに「涙の敢闘賞」映画化されました。

また、律義で礼儀正しいその相撲道から昭和29年には、力士の鑑として相撲協会から特別表彰を受賞しています。

プロフィール

本名	岩壁 静夫
生年月日	大正3年(1914年) 9月27日
出生地	名寄市西4条北2丁目
身長	173センチ
体重	127.5キロ
所属部屋	立浪部屋
得意技	左四つ、吊り出し、すくい投げ
初土俵	昭和7年5月場所
引退	昭和29年9月 春日山襲名
幕内成績	292勝279敗33休(勝率0.511)
逝去	昭和46年1月26日(満56歳)

※実際は高島郡高島村(現在の小樽市)生後間もなく名寄市に移住

名寄岩の誕生

名寄岩は、幼少のころから昭和6年に旧制名寄中等夜学校を卒業するまで名寄に住んでいました。卒業後は鍼灸師を目指し、東京都両国にある鍼灸学校に入学。

しかし、両国は多くの相撲部屋が並ぶ相撲の街であったことから、もともと体格の良かった名寄岩は立浪部屋にスカウトされ、角界に入門することになりました。

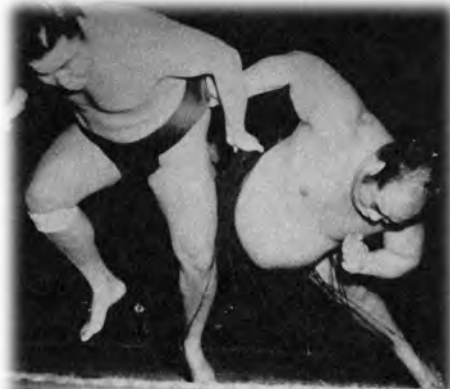
四股名は、親方が現役時の名前を一字とった「緑川」を用意していましたが、それを断ってふるさと「名寄」と本名の「岩壁」を合わせた「名寄岩」にしたいと主張したそうです。

怒り金時

頑固で度を越すほどの生真面目だった名寄岩。

花道に立ったときから闘志をむき出して鬼の形相で土俵に上がり、立ち合いになると、ただひたすら「左差し」から強引に寄り進み、得意技の「左四つ」や、熊のような怪力で相手を吊り上げ、まわしが届かないときには相手の背中肉を掴むことも。このような強引な取り組み方から「怒り金時」とあだ名がつけられました。

そのため、ある力士が名寄岩を怒らせてすきをつくろうと考え、不意打ちで逆上した名寄岩が負けてしまったことから、立ち合いでの焦らしや不意打ちなどで名寄岩を怒らせ、理性や冷静さを失わせる作戦をとる力士が続出しました。



記念イベント



名寄岩生誕100年記念展

名寄岩の一生と親族から借用した遺品を展示

とき 9月12日(金)～10月12日(日)

ところ 北国博物館

「名寄岩 涙の敢闘賞」上映会

名寄岩本人が出演の映画を鑑賞しましょう

とき 9月27日(土)

第1回上映 12:30～

第2回上映 16:30～

ところ 第一電気館(西3南5)

※入場料無料



記念講演会

「名寄岩関を偲んで」

講師は名寄岩と接点のある方

とき 9月27日(土) 14:30～

ところ グランドホテル藤花

演題 大相撲 名勝負、名場面
～放送席から見た60年～

講師 杉山 邦博氏
(元NHKアナウンサー)

※入場料無料



このほかに次の取り組みを行っています

- ・名寄岩の直筆と手形がデザインされた記念手ぬぐい、扇子の作成・販売
- ・市内菓子店の協力のもと「名寄岩せんべい」の復元
- ・関連イベントなどで名寄岩甚句の披露
- ・記念冊子、パンフレットの作成

詳しくは北国博物館へお問い合わせください

☎01654③2575

親孝行

幼少期から家業を手伝い、親思いだった名寄岩。上京して力士になってからも親孝行ぶりは変わらず、毎回番付表と仕送りを送り続けていました。

次のようなエピソードもあります。ひいきにしてもらっている家に泊まった際、北の方向を聞き、北向きに枕を置いて眠ったそうです。

これは、北海道にいる家族へ足を向けて寝るわけにはいかないというもので、常に両親への感謝を忘れませんでした。

手刀を広めた

「手刀を切る」とは、懸賞金がかかった取り組みでの勝ち力士が、行司から懸賞金が入ったのし袋を受け取る際に5本の指を伸ばした片手を左、右、中へと振る作法です。昭和41年に協会で規則が明文化されています。

この作法は江戸時代から行われていましたが、懸賞金を受け取るときの作法ではなかったそうです。

実は動作を広めたのが名寄岩で、懸賞金を受け取るときに礼儀正しく手刀を切ったようすが人々の目に新鮮に映り、ほかの力士も行うようになったといわれています。

敢闘賞

名寄岩の力士としての人生はげや病気に悩まされたものでもありませんでした。

入門後は順調に出世し、必死に稽古に明け暮れるなか、昭和13年に闘脇、昭和18年に大関に昇進しましたが、右足のけがから一度陥落。その後、昭和21年に返り咲きました。

しかし復帰後、持病の悪化のため休場や復帰しても負けることが多くなり、三役から落ちてしまいます。

それでも病気の妻や子どもたち、弟子のため治療を行い、昭和25年に病み上がりの痩せ細った体で土俵に上がりました。稽古も万全ではありませんでしたが、9勝6敗の成績をおさめ敢闘賞を受賞。この復活は、当時敗戦後の国民に希望と勇気をあたえました。



▶スポーツセンターに設置されている名寄岩の銅像